Y7-21

チーム医療の質向上の為の研修の検討 ～NST40時間研修アンケートを通して～

高松赤十字病院　栄養課[1)]、
看護部[2)]、検査部[3)]、薬剤部[4)]、外科[5)]
○黒川有美子[1)]、細川　悦子[2)]、宮脇　綾子[2)]、
三谷　　隆[3)]、筒井　信博[4)]、三浦　一真[5)]

【はじめに】当院では、平成13年10月よりNSTを立ち上げ、活動と並行して研修を行ってきた。立ち上げ当初から決して順風満帆ではなかったが、栄養に対する意識の向上と、エビデンスに基づく栄養学的先進情報の提示や導入、ひいては患者予後の向上を命題とし歩みを進めてきた。平成22年度より栄養サポートチーム加算が新設されその質の担保として担当スタッフに40時間以上の研修が課せられた為、教育認定施設である当院では各セクションから選出されたスタッフ対象に院内での研修を開始し、1年後の40時間研修終了時にアンケートを実施・検討したので報告する。
【方法】研修は当初からの講義型研修に加え、院内外に提供していた実習や、NSTラウンド及び症例検討会への参加、各セクションでの体験実習等カリキュラムを追加し、実習ファイルやNSTガイドブックを媒体とした。年度終了時に全カリキュラム修了者を対象としアンケートを行った。アンケートは無記名とし、実習のあり方と、研修必須項目に対する本人の主観的評定による意識の変化を訊いた。
【結果】実習のあり方については、参加しやすさ、周囲の理解、準備の負担、実習の有用性、多職種との関わりによるメリット、実習ファイルの是非と意見、今後の要望を訊き、それぞれ概ね良好な回答と前向きな意見を得た。また、研修必須項目については、研修を受ける前後の主観的な5段階評定を訊き、ほぼ全項目で研修前より後の方が有意によい評定となった。
【まとめ】情報処理・解析ツールとしてのシステムの改善、栄養評価指標の構築、研究・発表等の機会増、地域連携への貢献が今後の課題であり、人道を胸に今なすべき事に邁進したいと考えている。

Y7-22

糖尿病チーム医療を支えるスタッフのスキルアップと今後の育成

長野赤十字病院　看護部
○松井　浩子、大房　裕和

【目的】糖尿病のチーム医療を支えていくには、チームスタッフのスキルアップや新たなスタッフ育成は重要である。当院のスタッフには日本糖尿病療養指導士（以下CDEJ）の資格を持つ者が多く（現在21名）、資格維持のため研修会等へ参加することは多い。しかし院内での研修等で学べる機会は少ない。そこでチームスタッフのスキルアップに関する院内活動を振り返り、新たなスタッフ育成を含めた今後を考える。
【結果】2005年、療養指導に関わるスタッフで糖尿病療養指導士勉強会を立ち上げた。スキルアップとCDEJの専門性を高め、療養指導の質の向上を目的としていた。年間6回のペースで、現在までに25回の勉強会を開催している。それぞれが講師となり30分のレクチャーを行い、平均参加人数は10.3人であった。自らが講師となることで、「自分でも勉強して、いい経験になった」という意見が聞かれた。又、各職種が1時間の糖尿病教室を月0～2回担当し、年間で72回開催している。その他に患者会活動での講演や教育入院患者への多職種カンファレンスにおける情報交換がある。しかし、新たなスタッフを広げる活動はされていなかった。
【考察】チームスタッフが糖尿病患者への療養指導以外で院内活動する場は徐々に広がり定着しつつある。そしてその活動自身がスタッフそれぞれの学びの場となっていた。今後は更なるスキルアップを目指し、現在行われている多職種カンファレンスを活用して、事例検討会などを企画し学びを深めていきたい。そして現在行えていない新しいスタッフの育成を促す活動として、療養指導士を目指すスタッフへの勉強会開催など、新しい仲間作りを行いチーム医療に貢献していきたい。